

地震から半年、震災直後の風景が残る能登半島

仮設住宅で炊き出し・支援物資を届ける

7月17、19日、能登半島地震の被災地・穴水町の仮設住宅を訪問し、炊き出しとお米の支援に、福島県農民連から10名、石川県農民連2名、共同支援センターから6名が参加しました。

180食のそうめん、炊き込みご飯

県立穴水高校に隣接する陸上競技場に180世帯の由比ヶ丘仮設住宅が設置されています。福島からは県産小麦で作った素麺と炊き込みご飯、きゅうりとミニトマトを準備しました。前日に共同支援センターの皆さんが、炊き出し開催のチラシをポスティングしていただいたので、お昼前にはテント周りには行列ができていました。そこからは嵐のようにそうめんを茹で、炊き込みご飯を渡し続けました。大変暑い日でしたので素麺は大変喜ばれました。精米3kgを100袋準備しましたが、全て渡すことができました。

共同支援センターからは、衣類や茶わんなども準備されていました。仮設住宅に最近入られたという女性は「壊れた家から持ち出せるものが少なく、ここで頂けて助かります。」と話されていました。



米も野菜も喜ばれました。



猛暑の中で素麺も人気でした。

炊き出し、支援物資配布に参加された皆さん



胡瓜、ミニトマトセットも好評

倒壊したままの住宅、重機が少ない

炊き出しを終えた後は、能登半島先端の珠洲市で被害の状況を視察しました。能登半島の七尾市から北は古い住宅の倒壊被害が多くあります。その中でも珠洲市街地は二帯の住宅が倒壊しています。地震から半年もたつのに、がれきの撤去が進んでいませんでした。一部重機が入って住宅の撤去がされていますが、まったく足りていないように見えました。先が見えない暮らしが続くことはとても苦しいことです。不要不急の大坂万博や辺野古基地建設中止し、能登半島にこそ支援を強めるべきだと改めて思いました。

珠洲原発候補地

珠洲市を海沿いに北に進むと高屋地区があります。能登地震で海底から陸が隆起し、港の機能が果たせない地区が広がっています。この高屋地区には北陸・中部・関西の3つの電力会社による原発建設の計画がありました。長年の反対運動で中止になりました。もし、ここに原発があれば取り返しのないことになっていました。「原発がこなくなると良かった」が多くの方の実感ではないでしょうか。北陸道を福島へ帰る途中、休憩で立ち寄ったサービスエリアから新潟県柏崎原発が見えました。福島原発事故、能登地震の教訓はどこでも地震は起こりえる。危険な原発は直ちに停止し廃炉へ決断することです。

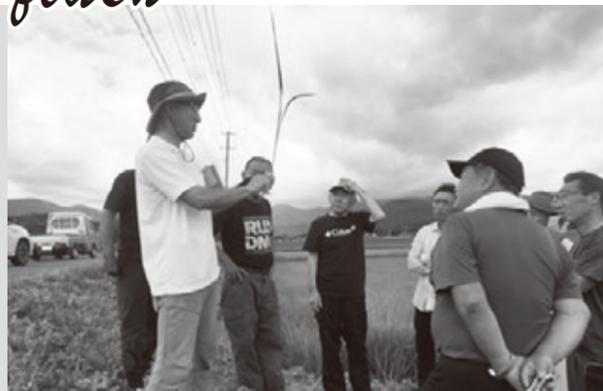


北陸道から見える、新潟県柏崎原発。

農民連フラッシュ flash

田まわり会&暑気払い

郡山では7月30日に4回目の田まわり会を開催しました。今回は暑気払いも兼ねての開催です。市内各地から15人が参加し、出穂前の穂の長さや葉色などを確認し、今年の成長の具合や追肥の量などを学びました。お昼はジギスカンでこれからの農作業の英気を養いました。



表示をよく見て購入しよう! 福島県農民連女性部学習会

7月2日、県女性部主催の食品表示や健康食品のあれこれを学ぶ学習会が、郡山市ほっとあたまで開催されました。消費生活センターの方を招いての出前講座に30名が参加し、特定保健用食品などの表示について学びました。



オンラインストア商品紹介

コシヒカリ玄米 (転換期間中有機米)

栽培時に農薬や化学肥料を使用していないため、自然環境に優しく体にも安全! 栄養素がたっぷり含まれた美味しいお米をお楽しみください。

転換期間中有機農産物とは
農薬や化学肥料を使わない期間が6ヶ月以上2年以下の水田で、遺伝子組み換えの種や苗を使用せず栽培されたお米です。

オンラインストアから購入できます

